

口蹄疫発生時の協力体制確立に向けた取り組み

紀南家畜保健衛生所
○後藤洋人 小谷 茂
齋藤正二 野口浩和

【背景】

平成 22 年 4 月～7 月にかけて、宮崎県で発生した口蹄疫により約 28 万 9 千頭の偶蹄類家畜が殺処分された。口蹄疫対策検証委員会の報告書では、農場情報収集や埋却地確保などの事前取組が不十分であったことが、初動の遅れや発生の拡大に関連していると指摘されていた。

【目的】

和歌山県東牟婁地域で口蹄疫が発生した場合に迅速に対応するため、県・市町村・警察等関係団体の協力体制確立を目的とし、一連の取り組みを行った。

【方法】

管内の偶蹄類飼養農家について、連絡先・飼養頭数・疫学関連情報の聞き取りを行い、情報を更新した上で一定の様式にまとめ、発生時に迅速対応出来るようにした（図 1）。

平成 22 年 11 月、関係機関を参集し協力体制確立のための会議を開催した（図 2）。会議では、スライドを用い宮崎県における防疫活動の概要を紹介するとともに、県の防疫対応マニュアル（案）に沿って口蹄疫発生時に必要となる防疫対応を関係機関に説明し、内容を検討、協議した。その結果、東牟婁郡 K 町の酪農家（乳用牛 370 頭飼養）をモデル農家とし、口蹄疫発生を想定した防疫計画案の策定を連携して進める事となった。

図 1

■ 農家情報の把握

農場所在地
電話番号
FAX番号
家族構成
従業員数
関連農場
総飼養頭数
放牧地等の状況
導入先
飼料購入先
運送業者
生産物出荷先(生乳等)
堆肥出荷先
薬品等納入先
機器等所有状況
埋却候補地の有無

項目	内容
農場所在地	
電話番号	
FAX番号	
家族構成	
従業員数	
関連農場	
総飼養頭数	
放牧地等の状況	
導入先	
飼料購入先	
運送業者	
生産物出荷先(生乳等)	
堆肥出荷先	
薬品等納入先	
機器等所有状況	
埋却候補地の有無	

↓

- ・最新の情報を把握しておく
- ・定型化し、必要な時に関係機関とすばやく共有する

図 2

■ 口蹄疫発生時の協力体制確立のための会議

平成22年11月4日
於 東牟婁振興局大会議室
参集 振興局(防災・農政・建設・健康福祉)、市町村、警察等関係機関



会議後、県および町担当者と連携してモデル農家の埋却候補地、消毒ポイント候補地の具体的な選定などを行った。また、東牟婁振興局の防災および農政担当者とともに当該農場の視察を実施し、畜舎周辺環境や家畜を見た上で気付いた点と感想の聞き取りを行った。

【結果】

協力体制確立のための会議では活発に意見の交換が行われた。「国道沿いで消毒ポイントとして利用できそうな全ての候補地について、国道管理事務所に事前説明してはどうか」等の意見や、死亡野生動物発生時の連絡体制の確認等の質問があった。また、モデル農家には埋却可能な所有地が無く、周辺は山野と河川に囲まれており平地の確保が困難であると予想されたため、埋却候補地についてのさらなる検討が会議後の課題として残った。埋却候補地については、会議後も県・町と連携し、飲料水の取水源や周辺環境を検討した上で現地視察を重ねた。その結果、発生時に町が窓口となって用地交渉可能な個人所有地や、町・県有地、計6カ所を選定できた(図3)。

図 3



消毒ポイント候補地については、会議の意見を参考に道路占有許可手続等が円滑に進むよう国道管理事務所に事前説明を行った。農場視察では、普段は家畜と接する機会のない県職員から「牛が怖い」「触り方がわからない」などの声が聞かれた（図4）。

図 4

■農場視察

- ・ 畜舎周辺環境を見て、詳細な作業動線を検討
- ・ 実際の家畜を見ての感想、気付いた点の聞き取り



【考察】

協力体制確立のための会議や農場視察を行うことで、口蹄疫に対する地域の危機管理意識を向上できた。会議参加者からは各々の担当業務に応じた意見が得られ、モデル農家の防疫計画案をより具体的なものとする事が出来た。また、農家情報収集や埋却候補地の選定など、口蹄疫対策検証委員会が問題として挙げていた点を克服できた。今後は、さらに検討を重ね関係機関の共通意識を深めるとともに、管内の他農家でも同様の防疫計画を策定し、確実に迅速な防疫対応が行えるよう備えたい。また、家畜に慣れていない職員が保定・繫留作業等を実習できるような研修や、作業現場で活用できるようなマニュアルを作成し、獣医師以外の防疫従事者が円滑で安全な作業を実施できるように努めたい。